

武漢事務所週刊ニュース(2015年11月28日～12月4日)

新型水質早期警報器が武漢で新登場

11月29日

新型水質早期警報器が国内ではじめて作られた。湖北省環境科学院、陽邏給水実業有限公司などの企業が1年にわたってテストをし、結果が良好だった。

責任者によると、国内外で現在使用されているミジンコ毒性テストは、人の手がかかるため、時間もかかり効率も低い。しかし、早期警報器は自動化と図形処理インターフェースの技術を利用して重金属、殺虫剤、除草剤などの有毒有害物を自動的に検出することができる。今までの方法と比べると、所要時間が8割も短縮し、検出率が3～6倍上がり、浄水場、重要水源地へのリアルタイムによる監視に適している。

業界の専門家が漢版 Windows システムを褒め

11月30日

28日に、北京で行った2015年インターネットセキュリティ及び創造革新フォーラムで、武漢深之度会社が2015版深度操作システムを発表して中国工程院会員院士の倪光南さんに認められた。

深之度会社の責任者によると、新版操作システムの最大のセール

スポイントは安定しているプラットフォーム全体カバーを実現したことである。これは loongson、sunwell などの国産チップのプラットフォームを利用している政府機関、企業ユーザにとってよりよい選択があることを意味している。

倪光南氏の話によると、現在、わが国の情報技術産業では、集積回路製造業以外に、全体として外国との差があまり大きくない。操作システムを例に、優秀さを認められた Apple の MAC 操作システムは中国の個人用パソコンの市場で僅か 0.6%のシェアを占めている。一方、投入が比較的少ない国産操作システムは現在、既に 0.3%のシェアを占めており、且つ引き続き発展している。